

HSK 毎月十二回(一・三・五・八・十一・十三・十五・十八・二十・二十三・二十五・二十八日)発行
一九九四年八月四日 第三種郵便物承認

HSK

遊 ぼう よ

No. 66



「夢」(大石 晃 作)

障害者相談支援事業から見えるもの

自立生活支援センター富山 平井

私自身、母親は13歳で父親は30歳の時に亡くなり、どちらも病気で障害を持っていました。いろんな障害者の人の相談に乗りながら、あらためて障害者の親子の関係の深さに戸惑うばかりです。

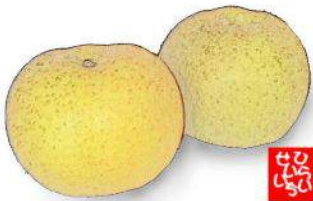
今と違って私が育った昭和30年は、施設の鎖国の時代で年にお正月とお盆の数日だけ家に帰ることができました。面会日も月1回と決められていました。そして、小学校5・6年生の頃に月1回家に帰られるようになりました。「親子関係が作れないから」と言うことが理由だったと記憶しています。その後、月2回になり、今は毎週帰れるようになりました。また、学校は寄宿舎があり、通学生の割合は私たちの子どもの頃は少なかったのですが、今は通学生の割合が多いのかなと思います。

さて、若い親御さんはいろんな福祉サービスを利用しながら生活をなさっているようですが、ご年配の親御さんは「我が子は私が見ないと」という思いが強いように感じます。そのご年配の親御さんが70～80代を迎えられ、ご両親のどちらかが亡くなられたり、介護ができなくなったり、認知症になられたりする中で、これまで続いていた生活や関係が続けられなくなっていく不安や現実があります。施設に入っている人も在宅で生活している人も同じ課題がのし掛かってきますが、深刻なのは在宅の障害者ではないでしょうか。

近年「住みなれた地域で生活したい」というキャッチフレーズが福祉で使われてきました。私自身この言い方がピンとこなかった。そもそも3歳の頃から19歳まで施設や養護学校で育って来ましたし、「住みなれた地域」とはどこなのかと言えば、施設や養護学校だったと思います。「故郷」という言われ方もありますが、今の年になって「故郷」と言われれば、やはり私にとってテレビ等の下にあった施設を懐かしく思います。今は、その施設も移転して無いのですが、私が物心付いて育ってきたのがそこだったからかもしれません。

話しは戻りますが、親子で二人三脚で過ごされてきたこれまでの生活に不安を感じられたり、戸惑いを感じられたりするのとは当たり前のように思います。在宅であれば障害者が一人ぼっちになってしまうこともあります。親に依存してきた分が多ければ多いほど、その先行きに不安を抱かざるを得ないのも現実です。施設にいる障害者であれば帰るところがなくなってしまう人もいます。

在宅や施設に限らず障害者本人と親（または兄弟）がどのような関係を作っていくのか。それはほんとに困った事態に陥ったときに、それまでどんな関係を作り上げられてきたのかにあるように感じます。



「親亡き後」の残された障害者が生き抜いていくために何が必要なのか、それは決して箱物や福祉サービスの提供だけではないのではないだろうか。心の営みのよりどころをどこに求めていくのか、それが重要な気がします。



障害をもった人の進学について

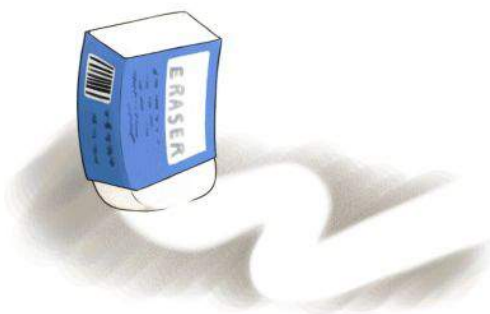
やまたに ゆきよ
山谷 恭代

私は富山の大学に通うために、今年の4月から地元の千葉を離れて富山に来ました。普段は電動車いすを使用し、両親と共にマンションで暮らしています。4ヶ月間富山で暮らしてみて、千葉と富山ではいろいろな違いのあることがわかりました。一番驚いたのは障害をもつ人の進学についてです。

私は小、中学校は地元の公立学校に通いました。高校は県立の普通高校に進学しました。中学校入学時や高校受験の際にはトラブルがなかったわけではありません。しかし、入学してからは先生方や友だちに助けをもらいながら、充実した学生生活を送ることができました。高校2年のときにはこんなことがありました。私が教室を出ようとしたとき、入口付近に荷物があつて通れませんでした。たまたま近くに座っていた友達に「この荷物ちょっとどけてもらっていいかな。」と頼むと、快く片づけてくれました。「ありがとう。」とお礼を言うと、彼は誰に言うわけでもなく、「ああ俺、今なんか生きてるって感じがする…」と言いました。家に帰ってこの話をすると、私の両親はとても気に入った様子で「良い人だ、優しい人だ。」と褒め称えました。彼と同じクラスだった当時はあまり意識していなかったけれど、その後クラスが分かれて関わるのが少なくなると、あのような言葉を自然に口に出せる彼の性格は素敵だったなとしみじみ思いました。周りの人に自分が手伝ってほしいことを伝えたときや、やってもらったとき、相手がどういう気持ちでいるのか気になることがしょっちゅうあります。彼の言葉を思い返すと、

自分の頼みを聞いて手伝ってくれた人の中にはこういうふうに感じてくれる人もいるのだということがわかり、なんだかうれしくなりました。

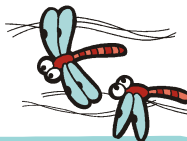
聞くところによると、富山では障害をもった生徒はなかなか普通学校には通えないそうです。私の経験からするとたしてそれはどうでしょう。もちろん養護学校には養護学校の良さがあります。中学1年のとき、側湾症の手術のために3ヶ月間養護学校に在籍しました。1クラス7人、オールバリアフリー、エレベーター、冷暖房完備の体育館など過ごしやすい環境でした。それまでは階段昇降機を使って上下に移動していたことを考えると、体はとても楽でした。しかし、私は大勢の人と一緒に学びたかったのです。入院生活が終わったので元の学校に戻りました。私にとって運がよかったのは、千葉では学校を選べたということです。障害があることによって学校が決まってしまうのは本人にとっても周りの人にとってもよくないことではないでしょうか。障害をもった人と健常者が共に学ぶことによって数多くのものが得られると思います。大切なことは、自分の進路は自分で決めるということです。人に押し付けられた進路では生きる喜びは半減するでしょう。千葉では可能であっても富山では不可能ということもあります。しかし、私の経験が何らかの参考になるのであれば私は普通学校に進学したいという人の役に立ちたいと思います。



自立生活支援センター富山の主な動き

〈この間の活動報告〉

- | | | |
|-----------------|---|---------------|
| 5月27日(日) | 平成24年度総会開催 | サンシップとやま |
| 5月27日(日) | 送迎 | 富山市内 |
| 6月1日(金) | 事務局会議 | リーぶる事務所 |
| 6月4日(月) | 第1回講師派遣「大沢野リハビリ友の会 お話・おしゃべり箱」 | 婦中社会福祉センター |
| 6月4日(月) | 県相談支援事業所連絡会出席 | 黒部市保健センター |
| 6月6日(水) | ケア会議開催 | 富山市内 |
| 6月7日(木) | 相談支援ワーキング出席 | 富山市役所 |
| 6月8日(金) | 事務局会議 | リーぶる事務所 |
| 6月10日(日) | 送迎 | 富山市内 |
| 6月14日(木) | 解放連記念講演参加 | 西本願寺富山別院 |
| 6月16日(土) | 送迎 | 富山市内 |
| 6月17日(日) | 日曜相談会開催 | リーぶる事務所 |
| 6月19日(火) | 出張ピアカン開催 | 高志ワークホーム |
| 6月20日(水) | ゆめ風ネット富山会議参加 | サンシップとやま |
| 6月21日(木) | 移動ネット会議出席 | サンシップとやま |
| 6月23日(日) | サンフォルテフェスティバル基調講演参加 | サンフォルテ |
| 6月25日(月) | 第2回講師派遣「富山県障害者(児)ホームヘルパー等養成研修」
(富山県福祉カレッジ) | サンシップとやま |
| 6月27日(水) | 相談支援ワーキング出席 | 富山市役所 |
| 6月28日(木) | 専門ワーキング出席 | 和敬会生活支援センター |
| 6月30日(土) | 第3回講師派遣「重度訪問介護研修」(文福) | サンシップとやま |
| 7月1日(日)~6日(金) | 自立生活体験 | 自立生活体験室 |
| 7月7日(土) | HSK(北陸定期刊行物協会)総会出席 | 富山市総合社会福祉センター |
| 7月7日(土) | 講演会「一緒がいいならなぜ分けた」参加(あっぷっぷ) | 富山市総合社会福祉センター |
| 7月9日(月) | 高志支援学校第1回評議委員会出席 | 高志支援学校 |
| 7月10日(火) | ゆめ風ネット富山会議参加 | サンシップとやま |
| 7月10日(火) | 第4回講師派遣「計画相談支援研修(富山市)」 | 富山市婦中ふれあい館 |
| 7月12日(木)~14日(土) | 自立生活体験 | 自立生活体験室 |



7月13日(金)	事務局会議	リーぶる事務所
7月15日(日)	日曜相談会開催	リーぶる事務所
7月17日(火)	出張ピアカン開催	高志ワークホーム
7月18日(水)	出張ピアカン開催	高志ライフケアホーム
7月20日(金)	事務局会議	リーぶる事務所
7月22日(日)	送迎	富山市内
7月25日(水)	GH・CHネットワーク会議出席	富山市障害者福祉プラザ
7月27日(金)	ケア会議出席	富山市役所
7月27日(金)	専門ワーキング出席	和敬会生活支援センター
8月1日(水)	県相談支援事業所連絡会主席	和敬会生活支援センター
8月3日(金)	事務局会議	リーぶる事務所
8月3日(金)	相談支援ワーキング出席	富山市役所
8月3日(金)	サンフォルテエンパワーメント会議参加	サンフォルテ
8月9日(木)	ゆめ風ネット富山会議参加	サンシップとやま
8月10日(金)	事務局会議	リーぶる事務所
8月12日(日)	送迎	富山市内
8月19日(日)	日曜相談会開催	リーぶる事務所
8月21日(火)	出張ピアカン開催	高志ワークホーム
8月22日(水)	出張ピアカン開催	高志ライフケアホーム

会費納入ありがとうございました

今年度も会費を納入していただき、ありがとうございました。

前号に振込用紙を同封させていただいたところ、次々と会費を納入していただき、皆様のお心遣いに感謝しております。お寄せいただいた会費・寄付金は法人の活動に有意義に使わせていただきます。

なお会費をお寄せいただいた方のお名前を機関誌に公表することについて、掲載してよいかどうかの確認欄に印がない振込用紙も多く、前年度同様に保留とさせていただきます。ご了承下さい。



富山生きる場センターの活動について

* 作品展示 *

地域の人たちに生きる場センターのことを知ってもらう目的で年数回、作品展示を行っています。作品を見てもらうことでセンターに通う個々のメンバーに関心を持ってもらうことを期待しています。「生きる場の作品を病院で見ました」と声をかけていただくこともあります。



(上の写真は今年7月、富山大学附属病院での展示)



* 内部学習会 *

仕事に直接関係することから生活面に関することまで幅広く講師を招いて学習会を開催しています。技術・知識の習得の機会となります。(左写真は富山県庁から講師を招いて「富

山駅周辺立体整備について」話を聞いている様子)。11月には富山市出前講座を活用し災害ボランティアの役割について学ぶ予定です。

* バザー参加 *

自主製品の販売のため、各種バザーに参加しています。1つあたりの単価が安いと、まとまった売上金額にはなりません、作り手と買い手をつなぐ場であり、お客様の声を直接聞くことで商品の改善につながることもあります。来年1月25日～27日には稲荷町のアピアショッピングセンターでハーティとやまが開催され、生きる場センターも参加する予定です。

私的「生きる場センター」の歩み ⑪

(沼田さとし)

◆梅次春美さんのこと(その2)

40歳までほとんど文字を知らなかった梅次さんが、自らパソコンを購入して文字を打ち始めてから亡くなるまでの約12年の間にどれだけの詩や文章を作ったのでしょうか?数えきれませんが、その中で私が個人的に梅次さんらしくていいなと思った詩をご紹介します。

「わたしはピエロ」

私はうめです。世の中にピエロみたいに生きたいなあと、私の部屋の中にたくさんのピエロの人形が飾ってあります。電動(車椅子)で街へ行くときたくさんの人を見ていくことがあって、変な顔をして見る人や声をかけてくれる人やいろんな人が住んでいます。たくさんの人を見ていくと、私はピエロだと心の中でいつも微笑んで家へ帰っています。

施設から出て10年が経ちました。やはり一生懸命に生活をやってきても、いいかげんな時もあった。いいかげんな時もなくなら生きて来られなかった。自分ではよくやってきたなあと、思ったりしています。

社会に障害者差別をなくすための文章です。たくさんの人とだけのため、私も書くことが社会に対する障害者としての私の生き方です。

社会に演じることができたら、素晴らしいと思う。

1992年4月作

「あきのきせつ」

すすきがかぜにふかれていた、かわいいこすもすの花が

かれんに咲いていました。

ひとは迷いながら生きている。ひとは開わりながら生きてゆく。開わるしか道が開けない。話さえもできない人たち、ことばさえも奪われていっている。私たち、あつい思いをだれにつたえる…あきのきせつ。

1992年10月作

「人生、いいものだ」

家の庭に青い空のようにアザミの花がきれいに咲いていました。最近、とくに思う。幸せだなあと、人はいろんな悩みを持っているが、その悩みを価値観で変えることができる。たとえば、私は障害を否定し、いい気持ちを持っている。頭ががらんがんと、首が痛くて、首が曲がっていくとそこがかたくなって、なおさら痛くなる。そんな毎日です。それはしかたないと思う。でも、いろんな苦しみがあるが、その苦しみを変えることができると思う。苦しいからあかんということじゃなく、自分の状態を否定しないでいくことが大事だと思う。出会い、かかわり、人はその出会いの中に生きている。私もたくさんのお会いを感じている。人生っていいものだ。

1995年6月作

亡くなる直前には、「詩のボクシング」に参加し、個展も何カ所かで開いた梅次さんが残したものは生きる場センターでの活動にとどまらない、梅次さんにしかできない「仕事」だったのかもしれない。

(つづく)

◇編集後記◇

残暑厳しい折、体調を崩されてはおられませんか。

今回、寄稿していただいた山谷さんのような障害をもった学生さんが富山県内の大学に何人かいらつしやるようです。構内のバリアフリー化が進んだということでしょうか。大変な面もあるかもしれませんが、無事卒業されて実社会で活躍してほしいものです。

(文責 田中)

編集人：特定非営利活動法人
自立生活支援センター富山
連絡先：〒930-0024
富山市新川原町5-9
レジデンス新川原1F
TEL. 076-444-3753
FAX. 076-407-5557
郵便振替：00700-5-47253
自立生活支援センター富山
発行人：北陸障害者定期刊行物協会
富山市今泉312番地
定価：90円
年間購読料：360円